

菊池渓谷

菊池市中心部から車で 20 分、市の東端にある鬱蒼とした森の中を一直線に走る全長 4 キロの菊池渓谷。この地は、滝と緩やかな水流が交互に現れる独特の景観を持つ、静かなハイキングスポットである。火山性の地形で多様な動植物が生息している。

さまざまな気候の物語

渓谷は菊池平野を南西に約 71km 流れ、有明海に注ぐ菊池川の源流だ。阿蘇山カルデラの外輪山を源とする無数の溪流が合流する標高約 800m の地点で、川と渓谷は形成される。そこから流れ落ち、渓谷の終点で標高 500m に達する。わずか 4km の間に 300m もの標高差があるため、上流の寒冷地ではモミヤカシの林、下流の温暖地では常緑広葉樹と、渓谷の生物多様性が大きく変化している。このような気候条件の混在と、森林と河川の生態系の共存が、さまざまな小型哺乳類、カエルやトカゲ、鳥類、昆虫類を引き寄せているのだ。

絶え間なく変化する景観

渓谷に連続する急峻な滝のドラマチックな光景は、その南東に位置する火山・阿蘇山の影響と何万年にもわたる絶え間ない水の流れが相互に作用した結果である。阿蘇山は 27 万年前から 9 万年前にかけて 4 回の大規模噴火を起こした。この噴火で放出された噴出物が、後に菊池渓谷となる谷に堆積した。この噴出物は、主に高温で厚く堆積した火山灰であったため、着地時に溶融し、溶結凝灰岩と呼ばれる岩石に変化した。

溶結凝灰岩は、周囲の空気で冷やされると、岩石が収縮して表面に亀裂が入る。この冷却が進むと、ひび割れが深くなり、柱状節理が形成される。岩盤の上を流れる水は、やがてこの割れ目に入り込み、岩塊が落ち、切り立った崖となり、滝となることもある。菊池渓谷では、このような岩盤の垂直方向の割れ目や、浸食によって山肌から崩れ落ちた巨石が川に流れ込んでいる様子を見ることができる。

川の流れが比較的急であることと、溶結凝灰岩が大きなブロックで砕けがちであることが相まって、菊池渓谷の景観は常に流動的である。現在、渓谷で見られる岩石は、阿蘇の最初の大噴火でできた約 27 万年前のものと考えられており、それより新しい層はすでに水によって侵食されている。